



美術館・図書館は2010年に新棟が完成し、大学図書館として新たな時代へ踏み出しました。翌年6月には旧棟のリニューアルを終えて、今日大学美術館として大きな役割を担っています。全学の念願であった独立棟の美術館を得てその活動がスタートして以来、早くも5周年を迎えた大学美術館は、ムサビならではのコレクションの公開、専門研究者による研究成果の公開ならびに学生を交えた企画展など、学内にとどまらず世界に向けてクリエイティブな情報発信の架け橋となっています。歴史の節目となるグランドオープン5周年記念企画は、〈新棟図書館内で開催する建築プロセスの映像展示〉、〈美術館ホールでの「花はくれない」公演〉によって、この5年間を振り返る試みです。広く学内外を問わず、旧棟時代を知らない多くの学生たちにも、ムサビの歴史の一端に触れてもらえるきっかけになればと願っています。

図書館新築〔設計=藤本壮介建築設計事務所/施工=大成建設株式会社/工期=2009年2月-2010年3月〕

美術館改修〔設計=藤本壮介建築設計事務所/施工=戸田建設株式会社 東京支店/工期=2010年7月-2011年3月〕

美術館・図書館グランドオープン5周年記念展示

# 美術館・図書館建築現場の風景 2008-2010年

12号館8階に機材を固定して定点観測撮影を開始した2008年7月20日から2010年3月20日までの新棟新築、旧棟改修に関する建築プロセスの記録映像の展示

会期：2016年 **8月20**日(土) — **9月17**日(土) 日曜休館

会場：武蔵野美術大学 図書館大階段、エントランスホール 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 電話：042-342-6004



# MAU MUSEUM & LIBRARY GRAND OPENING FIFTH ANNIVERSARY

具体的な建築計画やリニューアル計画の推進のため立ち上げられた新棟旧棟分科会、美術館機能検討部会が大きな役割を果たしました。さらにその中心メンバーとして当館の推進を担ってきた歴代館長が、それぞれ美術館と図書館に対する想いを語りました。それらの先生方は高橋陽一教授、森山明子教授、神野善治教授、田中正之教授、赤塚祐二教授です。

## 美術館と図書館のあいだ

グランドオープン5周年にあたり、クイズを1つ。武蔵野美術大学の美術館と図書館のあいだには、何があるでしょうか。正解例としては、1階の南北通路、2階の連絡路、半円形の建築物、そして「美術館・図書館」の「・」でしょう。

軽いクイズですが、この十数年の課題を考えると、美術館と図書館のあいだは重要です。美術資料図書館の拡充が2004年の建築計画大綱で確立し、2006年に建築委員会のキャンパス基本構想委員会は新棟新築と旧棟改修の一体構想を打ち出しました。2007年から新棟旧棟分科会は芦原義信氏の美術館棟と藤本壮介氏の図書館棟の一体構想を練り上げ、最後に「美術館図書館」に中黒を入れた「美術館・図書館」へと改称したわけです。

利用者にとって貴重図書、映像資料、民俗資料まで一括できる統合データベースの2014年公開は情報の一体化ですし、2016年から地下通路の開通で桜の並木につながる美術館と図書館のあいだはキャンパスの大動脈となりつつあります。教養を有する美術家養成を掲げた建学の精神にふさわしい、美術館・図書館の発展を祈念いたします。

高橋陽一  
武蔵野美術大学 元建築土地担当理事／教授

## “いいとこどり”の美術館改修

鳥の眼になって時間を遡ってみます。美術資料図書館が建ち上がった1967年、敷地には4号館、7号館、鷹の台ホールは見えるものの、1号館も8号館も5B号館も完成していませんでした。何という早さでしょう。本学が教育・研究の根幹に美術館・図書館を据えたのは驚くべきことです。

旧棟改修なつてのグランドオープンは新図書館開館の翌2011年でした。式典当日に建築関係者から聞いた言葉は、「改修は多くの場合、みなさんに喜ばれます」。骨格、たとえば特徴ある斜廊は残り、展示室5室に美術館ホール、椅子ギャラリーとイメージライブラリーも集結して、見える表層はすべて真新しい。そう、改修は“いいとこどり”なのです。

「新しい大学美術館への指針—美術館機能拡充のためのリニューアル案—」をとりまとめた2007年からグランドオープンまで4年、美術資料図書館建ち上げから現在までは半世紀と、大学美術館の長い旅です。この5周年を機に、美術大学に求められるMLA=ミュージアム・ライブラリー・アーカイブのさらなる充実を、鳥の眼が見つめています。

森山明子  
武蔵野美術大学 美術館機能検討部会議長／教授

## 渦巻式壁面構造の新図書館プラン

建築家藤本壮介氏から提示された、書架を「渦巻式」の構造壁にする図書館プランが採用されたものの、「図書館にならない」デザインに当惑させられました。日本十進分類法(NDC)に準じて蔵書を管理する図書館機能への配慮がなかったからです。配架の見通しが立たない中、シアトル市立図書館が「渦巻式」だと聞き、視察に出かけました。しかし立体駐車場のように回りながら立ち上がるフロアに書架が整然と並ぶ配置は平凡で、私たちの課題へのヒントにはなりません。

夏休み返上でスタッフ一同が知恵を絞っていた時、伝統的な什器である「香時計」の意匠が浮かんだのです。複雑な一筆書きに据えた抹香の端に点火すると長時間燃え続ける。これに倣えば蔵書をリニアに配架できるのではないかと。渦巻式の構造壁を放射状に分断して、扇状のエリアごとに図書をジグザグに配列する方式なら、中心に立つとすべてのジャンルが見渡せ、最短距離で目的の書架に到達できる。この構造こそが建築家と図書館スタッフが苦闘の末に獲得した世界に類のない、この図書館のユニークさだと言えるでしょう。

神野善治  
武蔵野美術大学 元美術館・図書館長／教授

## 図書館新棟の船出

度重なる雨漏り、尋常ならざる結露とそれが原因でできる水溜り、反り返る書架と落下する棚板、雨が天窓にあたる時のけたたましい騒音、大判ガラスからのまぶしい日射、読書には光量が不十分な照明。書き出せばきりがなくらいの、およそ新築の図書館に起きるとは誰も予想しない「事件」の連続によって、図書館新棟の船出はダークに彩られていました。何か起きるたびに駆けずり回らざるをえなかった職員の方々の苦労は、それは並大抵ではなかったはずですが。まがりなりにも5年間無事に続けてこられたのは、何よりも骨身を削って対応してくれた職員のみみなさんの努力のおかげと言っても過言ではありません。

図書館を利用する学生は飛躍的に増え、資料の保管環境も格段に向上しました。貴重書やデザイン資料の展示、ゼミ発表の場として図書館はますます活用され、学内における学修のための大切な拠点のひとつとなりました。まだ瑕疵工事がすべて完了したわけではありませんが、図書館の重要性はさらに増していくに違いありません。

田中正之  
武蔵野美術大学 前美術館・図書館長／  
前造形研究センター長／教授

## 一体となった力の器／美術館・図書館

美術資料図書館の建物を美術館・図書館としてリニューアルしてから5年が経ちました。旧来の建物には斬新なデザインの図書館棟が新しく増設され、軽やかで楽しい、アイデアにあふれた空間となりました。美術館には大小5つの展示室がありますが、この5年間、本学の専門性に根ざした内容の深い展示を幅広く展開し、レンガと大理石の二つのアトリウムや入口のロビー空間も含めて十分に活用してきたことは皆さんがご存知の通りです。

造形研究センターでの研究の成果や各学科の企画展、退任展、あるいは収蔵品による展示など、幅広い領域の魅力的な展覧会が開催されていますが、これほど多様な展示を可能としている理由は、美術館と図書館が一つの運営組織であることの他に、これらの展覧会が当館スタッフと監修にあられた先生、学内外の美術評論家や研究者との共同作業によって成立している点にあります。

ムサビ全体の力がここに集まるとき、美術館・図書館はその一体となった力の器として柔軟に機能し始めるのだと思います。

赤塚祐二  
武蔵野美術大学 美術館・図書館長／  
造形研究センター長／教授

美術館・図書館開催展覧会、イベント一覧(2010年度～2016年度)

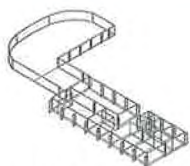
開催年度	展覧会名・イベント名	会期	部門※1	
2010	平成21年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.05～04.21	美	
	教授退任記念展 堀内貞明 人間のいる風景	05.10～05.30	美	
	美術館・図書館新棟落成記念 博物図譜とデジタルアーカイブⅠ	06.21～08.07	図・造	
	美術館・図書館新棟落成記念 博物図譜とデジタルアーカイブⅡ	08.23～10.25	図・造	
	2-305!! ムサビ助手展	09.06～12.18	美	
	コドモアサヒの時代	11.08～12.18	図	
	教授退任記念 甲田洋二展	11.11～12.09	美	
	教授退任記念 澤紀子展	11.15～12.18	美	
	映像講座 ドキュメンタリー:カメラ・アイの冒険	11.25	イ・造	
	映像講座 対談 かわなかのぶひろ×萩原朔美 ―映像の時代、個人で表現するということ―	12.13	イ・造	
	2011	平成22年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.11～04.27	美
		博物図譜とデジタルアーカイブⅢ	04.11～06.19	図・造
		土のうつわ ―海外編―	04.11～08.10	民
ムサビのデザイン コレクションと教育でたどるデザイン史		06.24～07.30	美・図・造	
WA:現代日本のデザインと調和の精神 世界が見た日本のプロダクト		06.24～07.30	美・造	
中村とうようコレクション展 楽器とレコードを中心に		07.04～09.24	美・造	
清水多嘉示資料展 第一期 諏訪からパリへ ―清水多嘉示の形成期		07.04～09.24	美	
教授退任展 滝沢具幸展		09.05～10.08	美	
くらしの造形19: 災厄防除 ―まもる姿・ふせぐ形―		09.05～10.08	民・造	
平成22年度 卒業制作・修了制作優秀作品展		09.26～12.10	美	
清水多嘉示資料展 第二期 昭和の記録 ―清水多嘉示の道程・敗戦まで		10.11～11.12	美	
博物図譜とデジタルアーカイブⅣ		10.17～12.24	図・造	
『強靱な素材、柔軟な思考』 ―民具と現代バスケタリーの接点― パート3:『織る、振る』		10.17～11.10	民	
20世紀から21世紀へ 転換期のポーランド・ブックアート		10.21～11.19	図・美・造	
杉浦康平・脈動する本 デザインの手法と哲学		10.21～12.17	図・美・造	
energy ムサビ助手展		11.28～12.24	美	
映像講座 時代と世界を照らし出す ドキュメンタリー映画祭の現場から		12.01	イ・造	
映像講座 街角の詩・現代中国ドキュメンタリー「収穫」	12.09	イ・造		
2012	平成23年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.04～04.26	美	
	大辻清司フォトアーカイブ 写真家と同時代芸術の軌跡 1940-1980	05.14～06.23	美・造	
	ダイアグラム教育 太田徹也の教育の軌跡/明日を予測する情報のカタチとデザイン	05.14～06.23	美	
	Relation: 継がれるもの ―語りえぬもの	05.14～06.23	美	
	ムサビのデザインⅡ デザインアーカイブ 50s-70s	05.14～08.18	美・造	
	『強靱な素材、柔軟な思考』 ―民具と現代バスケタリーの接点― パート4:『縫る、縛う』	05.28～06.22	民	
	世界の学生の環境ポスタープロジェクト	07.09～08.18	美	
	回顧展 夢みる人 今 敏	07.16～08.25	美	
	民具の機能と形態 Vol.1: 蓋と身の深い関係	07.16～08.10	民・造	
	映像講座 アンディ・ウォーホルの映画: ミニマリズムからナラティブへ	07.18	イ・造	
	教授退任記念 田中秀穂展 VANISHING & EMERGING	09.03～10.06	美	
	博物図譜とデジタルアーカイブⅤ	09.03～10.06	図・造	
	Print Resonance ―世界の美術学校の版画集展	09.03～10.06	美	
	タイポグラフィ教育Ⅰ 文字造形を主体にした大町尚友の教育の軌跡	09.10～10.20	美	
	アートとファッション、雑誌「ヴィジヨネア」の挑戦	09.18～12.01	図	
	映像特別講座 映画で学ぶ憲法(1): 憲法研究者が見た『カサブランカ』	09.27	イ・造	
	民具の機能と形態 Vol.2: 口と穴を考える	10.01～10.29	民・造	
	ムサビのデザイン 武蔵野美術大学のデザインコレクションと教育 会場: 東京ミッドタウン デザインハブ	10.05～11.04	美・図・造	
	映像講座 幻燈及活動寫真大上映會 ―日本 Animeのルーツを体験する―	10.18	イ・造	
近現代のブックデザイン考Ⅰ 書物にとっての美	10.22～11.17	図・美・造		
教授退任記念 斎藤國晴 <仮説>としての絵画	10.22～11.17	美		
マルセル・ジモン彫刻展	11.05～12.07	図		
映像特別講座 映画で学ぶ憲法(2): 民主社会における「君主」の表象	11.22	イ・造		
映像特別講座 映画で学ぶ憲法(3): 南アフリカに見る国家の変動と人権	11.24	イ・造		
教授退任記念 椎名純子 大地の棲家 人はなぜこのように棲むのか	11.26～12.22	美		
助手展 2012 武蔵野美術大学助手研究発表	11.26～12.22	美		
映像特別講座 シンポジウム「造形研究と映像の可能性 ―映像データベースの実証実験を踏まえて」	12.13	イ・造		

※1 美:美術館、図:図書館、イ:イメージライブラリー、民:民俗資料室、造:造形研究センター

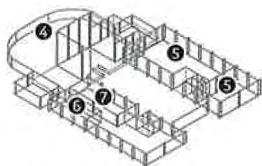
開催年度	展覧会名・イベント名	会期	部門※1
2013	平成24年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.03～04.25	美
	ET IN ARCADIA EGO 墓は語るか 彫刻と呼ばれる、隠された場所	05.20～08.10	美
	タイポグラフィ 2つの潮流	05.20～08.18	図・美・造
	ムサビのデザインⅢ デザインが語る企業理念:オリベッティとブラウン	06.03～07.27	美・造
	書とデザイン 書家・アーティスト 潘 徽 (Pan Wei) の作品と教育	06.03～07.27	美
	民具の形態と機能 Vol.3: わくわく!?	06.03～07.27	民
	13人のドイツ・コミック作家展	09.02～11.16	美・造
	教授退任記念 寺原芳彦 二軸の想(sou)	09.02～10.05	美
	向井周太郎 世界プロセスとしての身振り	09.17～11.16	美・造
	版画・陶磁コレクションハイライト展	09.17～11.16	美
	しかけ絵本Ⅰ: 開く、覗く、聞く、動く絵本	09.17～12.07	図
	デザインの原像としての民具Ⅰ: 竹を編んだかたち	09.17～11.16	民
	平野甲賀の仕事 1964-2013展	11.25～12.21	図・美・造
助手展 2013 武蔵野美術大学助手研究発表	11.25～12.21	美	
教授退任記念 宮下 勇 ムサビキャンパスの建築	11.25～12.21	美	
シンポジウム「進化するミュージアム2014」 会場: JPタワーホール & カンファレンス	01.21	図・造	
2014	平成25年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.07～04.30	美
	オオハラ・コンテンポラリー・アット・ムサビ	05.26～08.17	美
	デザインの原像としての民具Ⅱ: 竹が生み出すかたち ―竹の多様性と民具―	06.02～07.26	民
	「開く、覗く、動く絵本。世界のしかけ絵本」 会場: コミュニケーションプラザ ドットDNP	07.22～08.02	図
	ムサビのデザインⅣ 1980-1990's: エットレ・ソットサスとヌオーヴォ・デザイン	09.08～10.27	美・造
	ポーランドのポスター フェイスあるいはマスク	09.08～10.27	美
	コレクションハイライト: 館蔵スウェーデンポスター	09.08～10.27	美
	しかけ絵本Ⅱ: 江戸から明治に見るあそびのしかけ	09.16～11.29	図
	承德の民藝品 ―伊東祐信・知恵子コレクション展―	10.06～11.29	民
	井上耐子 時空を越えて	11.17～12.13	美
	助手展 2014 武蔵野美術大学助手研究発表	11.17～12.13	美
	映像講座 震災の後に 311×トーキョードリフター	12.06	イ
	2015	平成26年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.06～04.30
ポピュラー音楽の世紀 中村とうようコレクションでたどる20世紀大衆音楽のダイナミズム		05.25～08.16	美
絵の始まり 絵の終わり ―下絵と本画の物語―		05.25～08.16	美
近代日本彫刻展 ―A Study of Modern Japanese Sculpture―		05.25～08.16	美
中華世界の願いの形 ―河北省承徳の民間版画と剪纸―		06.01～06.27	民
映像講座 石岡良治+三浦哲哉 映画史講義 ―何が「ハリウッド」と呼ばれるか		07.02	イ
ムサビのデザインⅤ: 1960-80年代、日本のグラフィックデザイン		09.01～11.07	美
小野皓一展 武蔵野美術大学教授退任記念		09.01～09.26	美
マリク書店の光芒: ハートフィールド、ヘルツフェルデ兄弟とグロス		10.01～11.30	図
菓子木型の造形 ―職人の技と美―		10.05～11.28	民
堀尾幸男「対(ツイ)」		10.13～11.07	美
映像講座 映画と世界のサーキュレーション		11.19	イ
助手展 2015 武蔵野美術大学助手研究発表		11.24～12.19	美
池田良二 ―静慮と精神の息吹	11.24～12.19	美	
2016	平成27年度 卒業制作・修了制作優秀作品展	04.04～04.29	美
	GROUND 2 絵画を語る―見方を語る	05.23～08.10、08.20、08.21	美
	平面を超える絵画: インスタレーションと日本画的感性	05.23～08.10、08.20、08.21	美
	絵馬 ―「描く」「祈る」かたち―	05.23～07.09	民
	所蔵品展 ―絵画と彫刻をめぐる抽象表現	05.23～08.10、08.20、08.21	美
	小井土満展 ―鉄水墨	09.05～10.01(予定)	美
	ムサビのデザインⅥ: みんなのへや	09.05～11.12(予定)	美・造
	あかり/AKALI デザインされた日本の光	09.05～11.12(予定)	美・造
	鈴木久雄 ―彫刻の速度	10.17～11.12(予定)	美
	面 めん/つら ―民俗資料にみる顔の表現―	10.17～11.12(予定)	民
	助手展 2016 武蔵野美術大学助手研究発表	11.25～12.22(予定)	美
	はじまりは石 ―永井研治	11.25～12.22(予定)	美



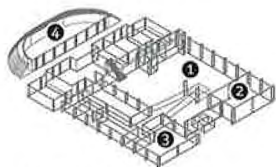
美術資料図書館から新築図書館・改修美術館へ



(旧)美術資料図書館3階



(旧)美術資料図書館2階



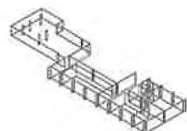
(旧)美術資料図書館1階

開放的な空間デザインの新棟図書館、  
そして名建築と称される  
旧棟の佇まいを活かしつつ、  
大学美術館へリニューアルされた  
全体図ですが、  
美術館機能である展示室の確保、  
作品収蔵庫など教育研究の場として  
充実した本学独自の  
一体的な美術館・図書館となりました。

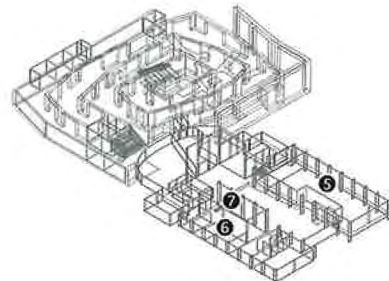
2010年に図書館(新棟)が建設され、  
2011年にはそれまでの「美術資料図書館」を  
「美術館棟」に改修しました。  
この改修による主な変更点は下記の通りです。

美術資料図書館 → 美術館・図書館

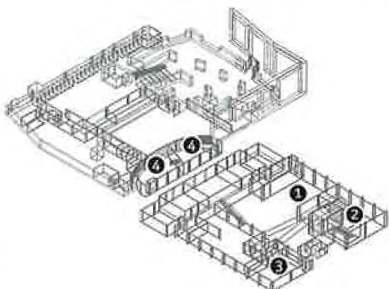
「1階展示室」	① 「展示室2」
「第10講義室」	② 「美術館ホール」
「図書館事務室」	③ 「展示室1」
「第3作品庫」	④ 「イメージライブラリー」
「図書館書庫」	「椅子ギャラリー」
「開架閲覧室」	⑤ 「展示室3」
「2階展示室」	
「開架雑誌室」	⑥ 「展示室5」
「雑誌書庫」	⑦ 「展示室4」



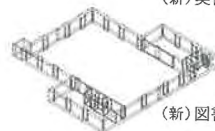
(新)美術館3階



(新)美術館・図書館2階



(新)美術館・図書館1階



(新)図書館地下1階